

## 今後の対応方針

- 過去の調査結果と掘削状況の比較からは、No. 2 処分場の未掘削箇所におけるドラム缶の把握は困難だったことから、埋め立てられている廃棄物の種類やVOCの濃度等を直接確認できる「ボーリング」による追加調査を行うこととする。
- 重点的に追加調査を行う場所は、掘削箇所（10B）の西側・南側法面に残存するドラム缶の近傍及び掘削箇所の南側とする。
- ボーリングによる掘削深度は、自然地盤が確認できる深さまでとする。

